

IAUD Newsletter vol.14 第3号(2021年6月号)目次

1. 大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」共創パートナーに認定……………1
2. IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介⑤……………4
3. CM 字幕プロジェクト YouTube「字幕 CM 協議会チャンネル」出演……………8
4. IAUD 6月の予定……………8

TEAM
EXPO
2025

大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」共創パートナーに認定 SDGs 達成に貢献し理想の UD 社会を実現

IAUD は、2025 年 4 月 13 日から 10 月 13 日に大阪府夢洲(ゆめしま)で開催予定の「2025 年日本国際博覧会(略称:大阪・関西万博)」に向けて、多様な人たちがチームを組み、多彩な活動で未来に挑む参加型プログラム「TEAM EXPO 2025」(主催:公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会)の共創パートナーに認定されました。

IAUD では大阪・関西万博開催までに、研究部会内に新設された「EXPO2025 特別プロジェクト」が主体となり、UD に関する様々な研究活動を実施していきます。

今号の Newsletter では、「TEAM EXPO 2025」及び「EXPO2025 特別プロジェクト」が推進していく活動に関して、同プロジェクトメンバーの久保雅義理事が報告します。



EXPO2025 ロゴマーク

SDGs 達成に貢献する「TEAM EXPO 2025」

「TEAM EXPO 2025」は、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現し、SDGs(国連が定める持続可能な開発目標)の達成に貢献するために、国内外において多様な参加者が主体となり、理想としたい未来社会を共に創り上げていくことを目指す参加型プログラムです。

企業や教育・学術・研究機関、国・政府関係機関、国際機関、自治体、NGO・NPO、個人など様々な人々が挑戦し、共創を進めていきます。

そして、2025 年には万博会場などにおいて当プログラムから生み出された活動を紹介し、世界へ発信します。

※「TEAM EXPO 2025」公式サイトは[こちら](#)をご覧ください。



「TEAM EXPO 2025」公式サイト

共創チャレンジを推進する共創パートナー

「TEAM EXPO 2025」プログラムは、「共創チャレンジ」と「共創パートナー」からなっています。「共創チャレンジ」とは、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現す

るため、自らが主体となって未来に向けて行動を起こしている、または行動を起こそうとしているチーム活動やプロジェクトです。

「共創パートナー」は、当プログラムに賛同し、自らが主体的かつ継続的に当プログラムに合致した独自の活動を展開していくことで、多様な「共創チャレンジ」の創出や支援を担う法人・団体です。それぞれが持つ強み(人的ネットワーク、人資源・ノウハウ、資金、フィールド、情報発信力など)を活かした独自のテーマを掲げて活動します。

様々な分野で具体的な「共創チャレンジ」を提案し、推進していく法人・団体が「共創パートナー」と位置付けられています。

研究部会「EXPO2025 特別プロジェクト」発足

大阪・関西万博の開催目的は、「SDGs 達成への貢献」と「日本の国家戦略 Society5.0[※]の実現」です。特に、SDGs の基本的な考え方は多様性の容認であり、これは IAUD の基本理念である「民族、文化、慣習、国籍、性別、年齢、能力等の違いによって、生活に不便さを感じることなく、一人でも多くの人々が快適で暮らしやすい UD 社会の実現」と合致しています。

そこで、IAUD では研究部会内に「EXPO2025 特別プロジェクト」を新設し、UD を応用した研究活動を通して、ユニヴァーサル EXPO2025 の実現とインクルーシヴな社会環境整備を進めようと考えました。

そして、この度「TEAM EXPO 2025」の共創パートナーに、「ユニヴァーサル EXPO2025 を実現し、2030 年 SDGs の達成とインクルーシヴな社会を構築します」というテーマで登録されました。

EXPO2025 特別プロジェクトは、参加者を募りながら様々な UD に関する研究開発を推進していきます。

そして、一人一人の人間性を尊重したユニヴァーサルな社会環境づくりをはかることで、大阪・関西万博が目指す「SDGs が達成される社会」と「Society5.0 の実現」に貢献します。

※IoT、AI、ロボット、Big Data などの最新テクノロジーを活用して実現する未来社会

国際 UD 会議で成果を世界へ発信

IAUD が 2019 年 3 月に開催した「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」では、SDGs に呼応した「UD による持続可能な発展」をテーマに、アジアなど発展途上国の参加者から大きな共感を得ました。

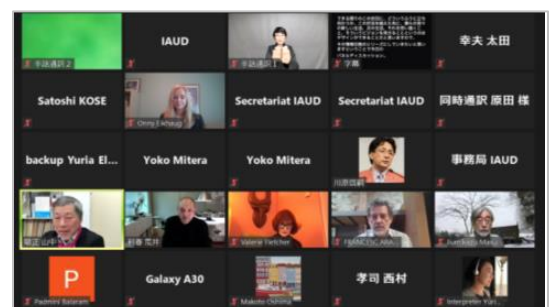
2021 年 2 月に開催した「第 8 回国際 UD 会議 2021 in ザ・クラウド」では、「新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン」をテーマに、感染症に対してニューノーマルなライフスタイルをどう構築するかが、世界中の UD 研究

者により論議されました。また、オンラインワークショップも実施され、課題解決に向けての具体的なデザインを考察し、世界中の UD “知” を結集して感染症に立ち向かい、救う、力を与える、繋ぐに取り組みました。

2021 年秋にはドバイ国際博覧会と連携した国際 UD 会議の開催、2025 年には大阪・関西万博と連携した国際 UD 会議の開催を予定しており、IAUD の UD 社会の取り組みへの成果を世界へ発信していきます。



「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」
開会式の様子



オンラインで開催された
「第 8 回国際 UD 会議 2021 in ザ・クラウド」

8つの「共創チャレンジ」を提案

共創パートナーとして「TEAM EXPO 2025」に参画するにあたり、EXPO2025 特別プロジェクトが提案した共創チャレンジは、下記のとおり UD に関するテーマ 8 つです。

	共創チャレンジテーマ	概要
1	EXPO2025 UD セミナー	EXPO2025 に向けたユニヴァーサルなまちづくりや環境整備を学ぶ。
2	お年寄りにやさしい施設の基準づくり	EXPO2025 開催までに関西地域の有料老人ホームなど高齢者が利用する施設の UD 配慮基準・ガイドラインを確立し、誰にでも簡単に施設選定ができるようにする。
3	UD ハッカソン・アイデアソン	UD に関心のある学生や企業の研修生を対象に、限られた時間内で課題やテーマに関してアイデアや解決策を競い合うプログラムを実施。商品企画・設計・計画の実行力を養い、スキル習得を目指す。
4	EXPO2025 に向けた子供 UD 現場教育プログラム	IAUD 研究部会標準化 WG が推進してきた「体験型 UD 教育プログラム」を、大阪府内の小・中学校で実践。
5	EXPO2025 UD 研究会	EXPO2025 の計画を学び、EXPO2025 に UD が関わる事案を研究して、成果を関係部署に提言。
6	EXPO2025 UD タスクフォース	上記「EXPO2025UD 研究会」から発展したテーマ別課題解決タスクフォース。EXPO2025 に向けて UD 提案を抽出し、課題の見える化及び改善案を作成して関係部署に提言。
7	夢洲万博博覧会 UD アセスメント	EXPO2025 会場となる夢洲での展示空間に関して、当事者やプランナー、デザイナーが UD 配慮ポイントを確認し、不適箇所を改善する UD アセスメントを実施。
8	視覚障害者のための EXHIBITION	EXPO2025 に視覚障害者でも安心して楽しめるイベントや展示を当事者と共同で考案して提言。

共創チャレンジへの参加者募集中！

これらの共創チャレンジテーマは案であり、具体的な内容はこれから検討していきますので、共創チャレンジへの会員の皆様のご参加・ご提案を募ります。

また、IAUD 研究部会の活動や IAUD の基幹事業である「IAUD 国際デザイン賞」「UD 検定」なども共創チャレンジの一端と捉え、IAUD 新規会員の拡大にも貢献できればと考えています。

つきましては、研究部会メンバーや基幹事業関連の方にも共創チャレンジへの参加のご検討をお願いします。

■「共創チャレンジ」担当連絡先

IAUD 事務局 メール: info@iaud.net Tel: 045-901-8420 Fax: 045-901-8417

IAUD 理事 久保雅義 メール: m-kubo@kinet-tv.ne.jp

IAUD 理事 納幸一郎 メール: osame@sankei-ados.jp



革新的な UD 活動を国際的に表彰 IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介⑤

IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介の第 5 回目は、地域計画部門金賞を受賞した The city of Borås (スウェーデン) の「Accessible City (アクセシブルシティ)」です。

ロジャー・コールマン審査委員長(英国王立芸術大学院名誉教授)は「Accessible City」について、「自治体レベルにおける明確で長期的な公約は、すべての人にとってより良い空間を作り出した。また、都市空間に関する発展した、まとまりのあるアイデアも生まれた」と評価しています。

今号の Newsletter では、「Accessible City」の取り組みをボロース市障害者コンサルタントの Hera Nowak 氏に紹介していただきます。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介①は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介②は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介③は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介④は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 プレゼンテーション／表彰式開催報告は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞結果は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 審査講評は[こちら](#)をご覧ください。



戦略的政策で UD 都市を実現

地域計画部門金賞: Accessible City

The city of Borås (スウェーデン)



スウェーデンのアクセシビリティ都市ボロース市の様子

ボロース市を真のアクセシビリティ都市に

スウェーデン南西部に位置するボロース市はテキスタイル産業の中心地として知られており、人口は 11 万 2,000 人と国内で 13 番目に大きく、急成長している都市です。



BORÅS STAD

同市は長年にわたり、「できるだけ多くの人々がアクセスできる都市に」をスローガンに、戦略的作業と障害者団体との緊密な協力を通じて、街全体のアクセシビリティ向上に取り組んできました。

UD とアクセシビリティを実現

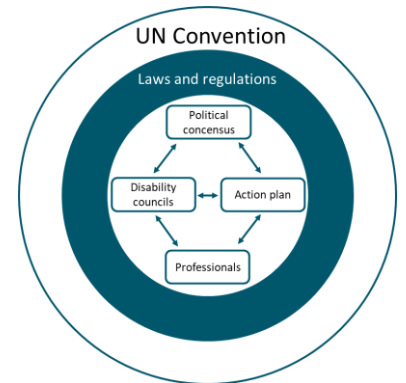
ボロース市は多くの要因により、UD とアクセシビリティの実現を達成できました。

国際レベルでは、障害者の権利に関する国連条約(CRPD)があり、国家レベルでは、スウェーデンの障害者福祉政策があります。

自治体レベルでは、同市は UD とアクセシビリティ取り組む、という政治的コンセンサスを持っています。

同市の具体的な目標は、下記のように「物理的なアクセシビリティ」と「アクセシビリティへの理解」の両方を向上させることです。

- 1.自治体で働く専門家の障害者に関する知識を高める
- 2.UD に関するコンセプトを自治体と民間企業で統合する
- 3.市内のショップやレストラン、美術館などの建物に関する情報をまとめて提供する



ボロース市が UD とアクセシビリティを実現できた要因

これらの目標を達成するため、同市は地元の障害者団体と緊密に協力して「障害者評議会」を設置し、24 人の専門家を様々な分野で「アクセシビリティオブズマン」として従事させ、さらにこのプロジェクトをリードする「障害者コンサルタント」「アクセシビリティコンサルタント」を雇用し、政治家や専門家にアクセシビリティに関するトレーニングやワークショップを提供しました。

障害者の意見が反映される「障害者評議会」

「障害者評議会」は、地元の政治家、専門家、障害者団体の代表者で構成されており、様々な障害者団体から継続的なフィードバックを受け取る機会を同市に提供しています。

障害者の意見が反映されるような仕組みを作ることで、より積極的な市民参加を可能にしています。そして、障害者団体との緊密な連携により、市民のニーズに応じて多くの分野でアクセシビリティの改善を可能にしました。

障害者団体と設定したアクションプランを遂行

同市は CRPD の項目に基づき、障害者団体とアクションプランを設定しました。アクションプランは、実施すべき内容と定期的なフォローアップで構成されています。説明責任を果たすため、6 か月ごとに一時的な成果が「障害者評議会」で報告され、アクションプラン終了時に最終的な結果が市議会で正式に報告されます。

24人の専門家から成る「アクセシビリティオンブズマン」

「アクセシビリティオンブズマン」は、同市役所の各部門職員及び民間企業の代表など24人の専門家で構成されており、それぞれの担当分野でアクセシビリティからの観点がきちんと組み込まれていることを保証する責任があります。

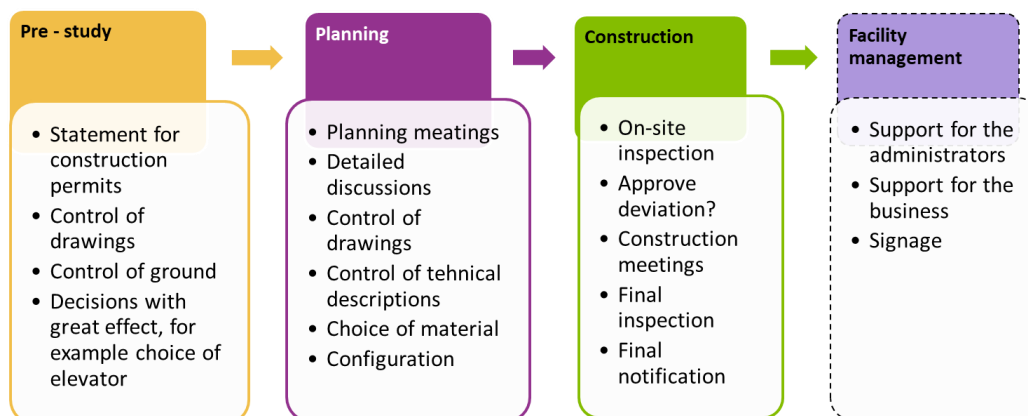
同市はアクセシビリティオンブズマンを通じて、住民参加を改善するために、お互いに協力することの重要性を継続的に強調しています。

「障害者コンサルタント」と「アクセシビリティコンサルタント」

同市は「アクセシビリティコンサルタント」と「障害者コンサルタント」という2つの役職を設置しました。これらは、UDとアクセシビリティ分野をリードし、他部門との会議や共同作業の調整をします。

アクセシビリティ理解担当の「障害者コンサルタント」は、障害者の権利やUD、アクセシビリティに関する知識を広め、障害者団体と自治体の架け橋となっています。さらに、アクションプランのフォローアップや改訂、評価を行う責任も担っています。

物理的アクセシビリティ担当の「アクセシビリティコンサルタント」は、建築プロセス全体に関与しており、すべての建設工事や改修工事がUD視点やアクセシブル基準を満たしていることを確認・保障します。



UD視点やアクセシブル基準に配慮されたボロース市の建築プロセス

多様な分野でアクセシビリティを改善

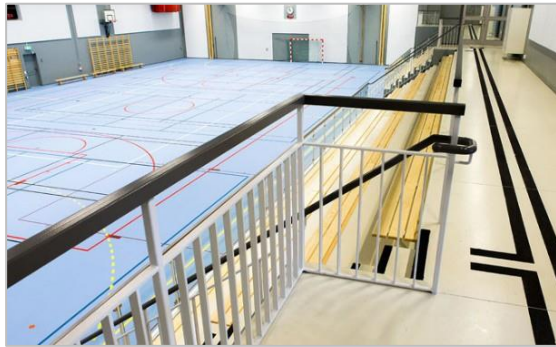
同市は障害者団体との緊密な協力により、下記のように多くの分野で市民のニーズに応じた街のアクセシビリティ改善を達成しました。



市内の湖岸に設置されたスロープ



湖上に設置されたアクセシビリティのある釣り場



学校の体育館内の触覚マーキング



高齢者や車いす利用者も移動しやすい車両提供



完全なインクルーシヴ教育が行われている幼稚園。写真右は幼稚園で代替コミュニケーションに使用されている教材

- ・市の中心部約 3 万平方メートルに融雪装置を備えた地面を設置。特に、高齢者への冬場の安全性を向上。
- ・UD とアクセシビリティに関する知識を備えた専門家の増加。
- ・知的障害者だけでなく、スウェーデン語を習得していない人にもインクルージョンの可能性を高めるため、代替コミュニケーションを使用できる専門家を設置。
- ・高齢者や車いす利用者の移動にはアクセシビリティのある輸送サービスを提供。
- ・屋外でのアクセシビリティの向上と無料で文化活動を楽しむ機会を提供。
- ・知的障害者の権利と自尊心に関する知識を高めるプログラム作成。
- ・市内にある約 350 の建物のデータベース作成。民間企業や建物所有者にアクセシビリティの問題に自覚を与え、誰でも建物を利用できるか判断できる。



字幕付き CM のさらなる普及を推進

CM 字幕 PJ YouTube「字幕 CM 協議会チャンネル」出演

字幕付き CM 普及を目的に活動している IAUD 研究部会 CM 字幕プロジェクトは、字幕付き CM 普及推進協議会(略称:字幕 CM 協議会)が YouTube において開設した「字幕 CM 協議会チャンネル」の動画「字幕付き CM 5 つのお話」に出演しました。

字幕 CM 協議会は、日本アドバタイザーズ協会、日本広告業協会、日本民間放送連盟の 3 団体で構成されており、聴覚障害者の情報アクセシビリティ向上のため字幕付き CM の普及を目的に活動しています。

CM 字幕プロジェクトの松森果林副主査は、動画「字幕付き CM 5 つのお話」の第 1 話「聴覚障害者の声」に出演し、SDGs の理念である「誰も取り残さない社会」の実現に向けて字幕付き CM への期待を話しています。

ぜひご覧いただき、字幕付き CM へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※YouTube「字幕 CM 協議会チャンネル」は[こちら](#)からご覧ください。



「字幕 CM 協議会チャンネル」に出演する
松森副主査

IAUD 2021 年 6 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24 14:50～ 衣の UDPJ オンライン会合 15:00～ 第 1 回理事会 オンライン開催	25	26	27
28	29	30 20:00～ 第 1 回評議員会 オンライン開催				

次号は 7 月上旬発行予定

特集: IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介⑥ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局: 〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417 e-mail: info@iaud.net